

DAITO ROTARY

OSAKA JAPAN

CLUB WEEKLY BULLETIN

第2660地区

大東ロータリークラブ

■ 事務所
〒574-0046 大東市赤井1丁目2-10
ポップタウン住道本館4階
TEL: 072-875-1200
FAX: 072-875-0590
E-mail: office@daito-rc.org
http://www.daito-rc.org/

■ 例会
毎週火曜日 12時30分～1時30分
〒574-0076 大東市曙町4-6
大東市民会館 4階「大会議室」
TEL: 072-871-0001

◆4つのテスト◆

言行はこれに照らしてから

- ① 真実かどうか？
- ② みんなに公平か？
- ③ 好意と友情を深めるか？
- ④ みんなのためになるかどうか？



地域を育み、大陸をつなぐ

創立 1967年 12月 26日

■ 会長 加藤 敏明
■ 幹事 中原 毅
■ 会報委員長 小林 誉典

2010年～2011年度
国際ロータリーのテーマ

地域を育み
大陸をつなぐ

国際ロータリー会長
レイ・クリンギンスミス

平成 23 年 2 月 15 日

No. 2101

H23. 2. 8 (No. 2100 の例会記録)

今週の卓話 (2月15日)

「Mac と Windows の話し」

木村 克己 会員

ロータリーソング

「日も風も星も」「四つのテスト体操」

次週の予定 (2月22日)

「旅行について Part4」

大矢 克己 会員

ニコニコ箱

- ・結婚記念日自祝 上田 陽造 君
- ・結婚記念日自祝 江原 誠三 君
- ・結婚記念日自祝 谷中 清孝 君
- ・結婚記念日自祝 清水 修 君
- ・誕生日自祝 角井 吉彦 君
- ・入会記念日自祝 (1月) 江原 誠三 君
- ・メイクアップ無お詫び 成田 隆志 君

先週の例会報告

◆ 出席報告 (2月8日分)

会員数 44名 出席数 34名 欠席者 5名
特定免除 5名 その他免除 0名
出席率 88.64%

前々回1月25日分

ホームクラブの出席者 34名 93.18%
メイクアップの結果 36名
特定免除 7名 その他免除 0名
欠席者 1名 修正出席率 97.73%



皆様、こんにちは。

2月に入り、3日の節分、4日の立春でだいぶ暖かくなりました。

風邪引き、体調に充分注意して下さい。

2月19日は、台湾の台北雙溪ロータリークラブ創立20周年記念式典に姉妹クラブとして出席してまいります。



また、WCSでの事業など国際理解と交流にご協力をお願い致します。

さて、本日のお話は、ITの覇権戦争で新しい支配者が世界をコントロールする。資源でコントロールする国。金融をコントロール。そして、情報で支配するなど。

その中でも日本は今後どの分野でもトップグループに入れなくなるようすです。特に情報、メディアではアメリカのマイクロソフト・アップル・グーグル・アマゾンなど、新しいビジネスを成立させ、強力に世界を支配してきました。

グーグルやアマゾンのようなプラットフォームを握るIT企業の支配力は強烈です。日本ではその危機意識が不足で、お金が回らなくなり、日本の文化やジャーナリズムが成り立たなくなるように思います。

中でも、2015年デジタル教科書の導入で、電子化が加速し、1人1台のタブレットPC配布。そのデジタル教科書の発起人はマイクロソフト、ソフトバンクなどであり、デジタル教科書の利用校がここに来て急増してきています。




委 嘱 状
 大東ロータリークラブ
中野 秀一 殿
 国際ロータリー 第2660地区
 2011～2012年度
インタラクティブ委員会
副委員長
 を委嘱申し上げます
 2011年7月1日
 国際ロータリー第2660地区
 2011～2012年度
 ガバナー **岡部 泰鑑**






「家庭内事故」

高田 眞吾 会員

病院危害情報からみた高齢者の家庭内事故 独立行政法人 国民生活センタ抜粋参照

1. 高齢者の家庭内事故の概要

全国 20 ヶ所の危害情報収集協力病院から 20 歳以上の事故が 2003 年度～2007 年度まで 21,860 件よせられている。

そのうち 20 歳以上の 65 歳未満（以下 65 歳未満）の事故は 15,291 件、65 歳以上の事故は 6,569 件である。

これらの年齢層の事故発生場所をみると、「住宅敷地内含む」が 65 歳未満では 53.4%（8163 件）であるのに対して、65 歳以上では 60.4%（1843 件）となっている。

65 歳以上のうち 65 歳以上 75 歳未満（全体 3051 件では 60.4%）、75 歳以上（全体 3518 件）では 65.8%（2315 件）となり、年齢があがるにつれて住宅内での事故の割合が高くなるのがわかる。

そこで事故発生場所＝「住宅敷地内含む」での事故を「家庭内事故」とし、65 歳以上の高齢者の家庭内事故 4158 件を中心に分析する。

高齢者の家庭内事故が若干増加している（前回 61.1%）

65 歳以上の高齢者の内 75 歳以上の割合が高くなっているという傾向がみられる。

（1）性別・年齢別件数

●多いのは 75 歳以上の女性

性別でみると「女性」64.8%（2695 件）「男性」35.2%（1463 件で女性の方が多かった。）

また年齢別にみると 65 歳以上 75 歳では 44.3%（1843 件）、75 歳以上では 55.7%（2315 件）であり、75 歳以上の方が家庭内で怪我をした人が多くなっている。

（2）危害の程度

●高齢者の事故は中等症以上の重い症状に

危害程度別では、「軽症」79.0%（3285 件）、「中等症」18.2%（758 件）
「重症・重篤症」2.4%（99 件）、「死亡」0.1%（16 件）となっている。

65 歳未満をみると、「軽症」88.7%（7240 件）、「中等症」10.8%（882 件）

「重症・重篤症」0.4%（36 件）、「死亡」0.1%（5 件）であることから、高齢者の方が中等症以上の重い症状割合が高いことがわかる。





病院危害情報における危害の程度の定義

「軽 症」入院を要さない傷病

「中等症」 清明な危険はないが、入院を要する状態

「重 症」生命に危険が及ぶ可能性が高い状態

「重篤症」生命に危機が迫っている状態

「死 亡」

死亡の原因で最も多かったのは熱傷の 12 件であり、高齢者の熱傷 519 件中 2.3% が死亡事故であった。事例を見ると、熱症のうち 6 件は風呂場の湯によるやけど、5 件は着衣着火、1 件は電気カーペットの低温やけどから腎不全の合併症をおこしたものである。着衣着火の火元となったものはストーブ、ガスコンロ、ローソク、炭コタツ、ごみ焼きの焚き火である。他は屋根、脚立からの転落 2 件、餅を喉に詰まらせたことによる窒息などであった。

(3) 危害内容

●高齢になるほど骨折が増加

危害内容では、「打撲・挫傷」45.8% (1906 件) が最も多く、ついで「刺し傷・切り傷」16.1% (669 件)、「骨折」14.7% (612 件)、「熱症」12.5% (519 件) の順である。65 歳未満の骨折 (6.7%、544 件) と比べると高齢者の方が 2 倍以上多いことになる。

(4) 危害部位

●大腿のけがは重症化しがち

危害部位では「頭部」25.1% (1043 件) がもっとも多く 4 分の 1 を占める。

65 歳未満では、「手指」が 33.6% (2744 件) である。

危害程度別では、「軽症」では「頭部」が多いが (28.9%、951 件)

「中等症」、「重症・重篤症」では「大腿」(22.6%、171 件、34.3%、34 件)

(死亡) では、(全身) (62.5%、10 件) が 1 位である。

(5) 事故発生場所、事故時の行動

●居室や階段で歩いているとき

家庭内のどこで危害が、発生しているかでは、「居室」25.8% (1072 件)「階段」13.1% (54 件)「キッチン」11.9% (495 件) が多い。

65 歳未満では、「キッチン」がもっとも多い。32.8 パーセント (2677 件)

65 歳以上事故時の行動は、「歩いていた」がもっとも多く 29% (1205 件)、65 歳未満「調理」25% (2039 件)、65 歳以上でも 75 歳以下は「台所」での事故が「階段」よりも多い。75 歳以上では「居室」以外は少なくなる。

(6) 危害の原因となった商品・設備

●多いのは階段と床 2662 件、「階段」13.4% (557 件)、「床」9.9% (410 件)

「ベッド」4.7% (197 件)、「浴室設備」13.4% (163 件)、65 歳未満「包丁」

14.1% (1150 件)、「階段」12.4% (1015 件)、「天ぷら油」3.5% (286 件)、

「ドア」3.5% (件)、「他の調理器具」3.3% (266 件)





(7) 事故のきっかけ

●転倒・転落で重いけが

階段から足を滑らせて転落、居室の床での転倒ベッドから降りる際の転倒、トイレから廊下に出たところでの転倒などが多くなっている。

2. 主な事例

(1) 階段・床での転倒・転落による骨折

【事例1】階段の2段目で転倒し、臀部と後頭部を強打した。→腰椎圧迫骨折と小脳に出血あり→重症 83 女性

【事例2】夜中2時ころ、トイレに行って部屋に戻ろうして段差につまずき転倒→左大腿部を骨折→重症 78 女性

【事例3】トイレから廊下に出た時つまずいて転倒→左関節痛救急来院→左股関節骨折→重症 86 女性

(2) 浴室での転倒・やけど・突然死

【事例4】自宅、風呂に入ろうとして滑って転倒、浴槽に頭から転落水を飲んで溺れかけた→重症 86 女性

【事例5】風呂の湯加減を見に行った際、謝って熱湯の浴槽に転落しやけど→死亡 85 女性

【事例6】入浴中、家人が15分おきに様子を見ていたが、顔面がお湯につかり意識不明→死亡 74 男性

(3) 屋根・屋外作業での転落事故

【事例7】庭の樹木を切っていて、転落→首の骨骨折→重症 7 8 男性

【事例8】自宅の屋根修理中、1.5mの脚立に上がって転落→頭部を強打→脳挫傷、全身打撲→死亡 68 男性

【事例9】高さ3mの屋根から足を滑らせて転落。→救急搬送脳ヘルニア→死亡 91 男性 脳ヘルニアとは脳内圧が急激上がり一部部位が転移する事により脳幹が損傷されてマヒ、呼吸困難になる。

(4) 身の回りの生活用品での事故

【事例10】麦茶を沸かしたやかんを倒して下半身に浴びた→やけど 3 度→重症 81 女性

【事例11】こたつ布団につまづいて仰向けに転倒→腰部骨折、→重症 89 女性

【事例12】掃除機のコードにつまづいて（引っかけて）転倒→胸部打撲し骨折→重症 67 女性

(5) 着衣着火

【事例13】ローソクの火が衣服に燃え移りやけど→死亡 71 女性

【事例14】調理中、ガスコンロの火が寝間着着火しやけど→死亡 79 女性

【事例15】自宅前、焚き火し着衣に引火→やけど→死亡 75 女性





3. 高齢者の家庭内事故の特徴

(1) やけどは死亡原因のトップ

やけどは高齢者の死亡事故 16 件中 12 件。3/4 やかんや天ぷら油など調理中の事故場合は比較的軽い物が多いが、浴室でのやけどは死亡事故につながるほど重大。

やけどによる死亡事故 12 件中 6 件は浴槽で熱い湯に浸かったことによるもの。5 件は着衣着火、1 件は低温やけどからの合併症。高齢者のやけどは、重症化、深刻化することがわかる。

(2) 浴室は要注意

浴室での事故は、浴槽で熱い湯に浸かってしまったことによるやけど^①の他、転倒や突然死なども起きている。65 歳未満では、浴室設備は事故原因となった商品・設備の 8 位であるが、高齢者の場合は 4 位である。浴室は通常でも滑りやすい場所であるため転倒事故は多い。また冬場の温度差や心疾患と入浴の関係など、高齢者にとっては注意の必要な場所である。

(3) 着衣着火は死亡事故につながることも

着衣に火がつくことによるやけどの事故が意外と多い。コンロでの調理中やローソクから袖口に火がついた。ストーブに近づき過ぎて火がついたなどである。死亡事故のうち、着衣着火の火元となったものは、ストーブ、ガスコンロ、ローソク、炭こたつ、ゴミ焼き（焚き火）である。

(4) 階段からの転落や床での転倒により骨折

骨折のきっかけは転倒や転落であるが、高齢者の場合階段などの高所から転落するだけでなく、居室や廊下、玄関などで転倒することが多くなっている大腿などを骨折すると中等症以上治療に長期間を要する重いけがになる傾向がある。階段や廊下などでつまずく、立ち上がった時によろけて家具にぶつかる、浴室から脱衣場に行く際に滑って転倒する、カーペットや座布団、布団や掃除機のコードなどに足をとられるなど、ちょっとした事が転倒・転落の原因になっている。また就寝中にトイレに行くためにベッドから降りたあとによろけて、転倒するなどもあるので、寝起きの際トイレの際も要注意である。

(5) 高所作業中の転落

最近、高齢者が屋根での仕事や脚立やはしごに上った作業で転落する事故も多くなっている。現役で働いている人も多いため、日常的な慣れた作業での事故と思われる。階段や段差による転落は打撲症で済むことも少なくないが、屋根、脚立梯子による高所からの転落では、65 歳未満と 65 歳以上での事故発生場所は 0.6%と同じ割合になっている。





4. 専門家からの助言 「福祉と生活ケア」研究チーム研究部長 高橋 龍太郎さん

高齢期の事故は生活の大半を過ごす家庭内の、しかも居間などで発生することが多い。特に後期高齢期（75歳以上）の事故は危険な動作や作業に伴って起こるよりも、日常のなにげない活動中に発生する可能性があることを示している。また、一人暮らしの高齢者が増えて慣れない作業を自分でしなくてはならず、事故に繋がる事もあるだろう。

受傷の特徴としては、とっさの時、手で防御反応を取る事が難しくなって、頭部頸部の打撲や転倒・しりもちをつくことが増える。前者では、頸椎損傷によるマヒを、後者では腰椎圧迫骨折による腰痛を起こすことが多い。

日常生活の中で、立ち上がり動作、食事後、排泄、入浴中の4つの動作は、自律神経活動が変化して血圧・脈拍の急激な増加・減少が起りやすく、めまい・失神など事故の誘因になることがある。その予防の為には、日々の生活にメリハリをつけ、友人、知人との交流、趣味活動、家事、大工仕事（DIY）など豊かな時間を過ごすことが大切である。

高齢期には視覚や聴覚機能が衰えてくる。物がぼやけて視界が不鮮明になったり、何かに気をとられると見えているはずの物に注意がいなくなったりする。予防のために照明が届かない場所には、足元ランプをつけたり、部屋の色調と異なる色の家具にしたり、こまめに片づけをするなどが効果的とである。

熱傷や着衣着火による死亡事故も多い。このことに関連するのは手の巧緻性（器用さ）の低下と感覚障害の出現である。どちらも、「手元が狂ってしまった」事故に直結する可能性がある。完全な予防方はないので、そのような機能低下の事実を認識して生活することが必要。

5. 消費者へのアドバイス—高齢者の家庭内事故を防ぐために

①階段や床での転倒・転落事故を防止する

段差を無くす工夫をする。→玄関は式台や椅子を置く

階段・廊下・玄関・浴室・トイレ→手摺りを設置する。

階段・廊下・玄関→明るい照明や足元灯をつける→人感センサー付の照明器具。

②浴室での溺死・やけどを防ぐ

心臓などに負担をかけないように、家族が入浴した後やシャワーで床・壁を温めてから入浴し、冬場は、脱衣場も暖房して脱衣場と浴室との温度差を減らす。

給湯やシャワーの湯温が熱くなりすぎないようにする。

③屋根や脚立からの転落事故を防止する

はしごや脚立には上らない。万一する場合必ず一人でしないこと。

自分で行わず業者や家人に依頼するのが安全。

毎年全国のどこかで雪下ろしによる死亡事故。庭の樹木を剪定中の事故。

④衣類に着火する事故を防止する

袖や裾が広がった衣類は火が着いても気づきにくいので注意する。火が燃え広がりにくい素材を利用する（防炎性のある素材）

⑤窒息事故を防止する

食事の際は、お茶や水を飲んでのどを湿らせてから少しずつゆっくりと噛んで食べる。餅など粘りのある食品は小さく切ってゆっくり食べる。周りの人は、高齢者の食べる様子をよく見て、急に話しかけるなどして慌てさせないようにする。





⑥物選びの工夫

高齢者向けの安全性の高い物、使いやすく工夫されたユニバーサルデザインの物も上手く利用する。

6. 私感として

バリアフリーとは→障害者を含む高齢者等の社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障害や精神的な障壁を取り除くための施策。若しくは具体的に障害を取り除いた状態をいう。英語では設備やシステムが広く障害者や高齢者などに対応可能であることを指してアクセシビリティ accessibility という用語頻用される。

バリアフリーは建物の段差を取り除くことなどのみを示す認知度の低い用語である。[ウィキペディアから]

消費者へのアドバイスー高齢者の家庭内事故を防ぐために

- ①階段や床での転倒・転落事故を防止する
- ②浴室での溺死・やけどを防ぐ
- ③屋根や脚立からの転落事故を防止する
- ④衣類に着火する事故を防止する⑤窒息事故を防止する
- ⑤物選びの工夫



「旅に病んで 夢は枯れ野を かけめぐる」

松尾芭蕉

旅の途中、病気でたおれて床にふしていても、夢の中で枯れ野を
かけめぐっている。

季語：枯れ野（冬）

